



Weekly Bulletin

The Magic of Rotary

ロータリーのマジック

国際ロータリー会長 ステファニー A. アーチック

静岡ロータリークラブ ●例会日／毎週月曜日12:30～13:30 ●例会場／グランディエール ブケーカイ TEL.273-5225
●会長／川辺 哲 ●副会長／児玉 俊明 ●幹事／横山 泰久 ●副幹事／川崎 裕司

2024-2025 8月19日 ☀ 第3713回例会 ゲスト卓話「ジャズと、私と、ストリートジャズイン静岡」



●ロータリーソング●



ソングリーダー
宮部 理香君

●会長挨拶●

会長 川辺 哲君

パリ・オリンピックが終わりました。日本は、東京オリンピックを凌駕する過去最高の金メダルを取り、アメリカ、中国に続く、世界第3

位の金メダル国となり、改めて日本の力を世界に知らしめる事になったと思います。国内では自民党総裁選や総選挙が控えておりますが、目の前が暗くなる話ばかりで、「経済とスポーツは一流、政治は三流」と言われてもおかしくない状況です。一方、地震や大型台風が我が国を襲い、ウクライナやパレスチナでは戦争状態が収まりません。アメリカの大統領選でも新しい事態が起き、世界はざわついておりますが、私自身は、あまりの暑さに益々思考力が鈍ってお

りますが、例会がお休みだったために、多少リフレッシュ致しました。お盆休み前の連休に、静岡の中心商店街（呉服町、紺屋町、七間町）では、恒例の「夏まつり夜店市」が行われました。今年で第60回になります。最近はこちらで「夜店市」が行われるようになりましたが、その元祖だと思っています。本日は、挨拶代わりにその話をさせていただきたいと思っています。私の会社の本店は呉服町名店街にございます。静岡ロータリーの植松さんも呉服町名店街のメンバーです。楽器店の経営者として、長い間、このお祭りに関わってきました。常に新しいイベントを企画し、準備から、当日の運営、後片付けまで、街の連中と汗だくになりながら楽しんでまいりました。最近、その「夜店市」が大きく変わってまいりました。かつての「夜店市」は、静岡の中心商店街が合同で企画する、年に一度の大バーゲンセールでした。老舗のお店の「売れ残り」だけでなく、一年間掛けて問屋からお買得品を買い集めて、3日間ですべて売り切ってしまうという「大お買得市」だったのですが、最近は、安くて良いものが世の中に溢れ、しかも、わざわざ商店街に行かなくても、郊外の大型ショッピングセンターで、さらに最近は、家にいながらパソコンやスマホをポチッと押すだけで、翌日には家や会社に届いてしまうという、とんでもない時代になってしまいました。かつては、静岡県中部エリアの100万人商圏から、お客様が押し寄せ、立錫の余地もないほどの賑わいぶりでありました。お客様は両手で抱えきれないほどの買物をして帰られましたが、最近は、手ぶらで帰られる方ばかりでございます。即ち、物が売れなくなってしまったのです。その代わり、夜店市には、様々な飲食店やエンタメのコーナーが出来る様になりました。お客様の数が減り、歩き易

くなりましたので、最近の熱暑にも拘わらず、お客様は楽しみを求めて街へ出て来られます。商店街の若い連中には、お客様の期待に応えるために、これからどうして新しいお祭りを構築していくかが試されている、と話しております。私の商店街活動のテーマは、「再開発を軸としたまちづくり活動と空き店舗対策」なのですが、冷静に考えますと、残念ながら商店街は終わっていると思います。そろそろ商店街という呼び方から、もっと気の利いた名称に変えなければならないと思います。お客様が買いたいと思う商品は街にはありませんが、それでもお客様は楽しみを求めて街に出てこられるのです。どうやって楽しんでいただくか？どうやって充実した時間が過ごせる施設を誘致するかが、次世代を担う後継者の知恵の見せ所だという趣旨で、勉強会や新陳代謝の進められる体制づくりの為に、老体に鞭打っております。本日は、おまちの夏の風物詩「ジャズ・フェス」の仕掛け人、ドットクールの林さんの卓話を予定しております。台風が来始めました。秋の気配が待たれる時期なのですが、未だ暫くは猛暑が続くと思われます。健康には充分留意されて御活躍ください。「エンジョイ・ロータリー！」



● 幹 事 報 告 ●

本日委員会終了後、第1回定例理事会を開催

●おめでとぅ●

【誕生祝い】

- 月●●日 牧田静二さん
- 月●●日 稲葉 豊さん
- 月●●日 伴野 隆一郎さん
- 月●●日 若松 誠さん

【結婚記念日】

- 月●●日 山田 知広さん、広美さん
- 月●●日 河野 誠さん、佳子さん

●スマイル●

牧田静二さん

パストガバナーのように、とうとう●●歳になりました。若い頃、人間せめて●●歳くらいまでは生きたいと願っていたのです。それを遥かに超えてしまいました。こうしてロータリーの例会に出席ができるのは奇跡です。あとどのくらい続くか分かりませんが、もう少し頑張ってみます。お誕生日のお祝いありがとうございます。

稲葉豊さん

やっと●●歳となりました。お誕生日のお祝いありがとうございます。

伴野隆一郎さん

誕生日のお祝いありがとうございます。

若松誠さん

静岡ロータリークラブから●回目のお誕生日祝いに感謝し、スマイルします。

山田知広さん、広美さん

結婚祝いの素敵なお花をありがとうございます。●●年目を迎えました。これからも精進いたします。

植松昌美さん

浅原寺戸12番テーブル、満席です。

望月ひろゆきさん

石道さん満席テーブルです。

久保田さん、豊田さん

9月14日（土）浮月桜にて開催 徳川慶喜公 渋沢栄一関係の講演会、ルータバキンの演奏会 静岡市料理店組合6社のお弁当付き ¥12,000円。是非、多くの静岡ロータリーの皆様の参加をお待ちいたします。9月13日（金）ジャズの案内もあわせてお勧めいたします。

●出席報告●

例会日	全会員数 (出席計算人数*)	出席 会員数	欠席 会員数	暫定 出席率
8/19	110名	現地 70名	40名	63.64%

※出席免除会員を引いた会員数。

出席免除会員は欠席しても出席扱いになるため。

欠席した方は年度内にメイクアップしましょう！
なお、国際ロータリー理事会の決定事項に則り、それに変更が無い間は全会員出席扱いとします。

メイキャップ対象に歓迎会が含まれております。是非、歓迎会の出席もよろしく願いいたします。

●ゲスト卓話●

ドットクール 林三景（はやし みつかげ）様
「ジャズと、私と、ストリートジャズイン静岡」

・1965年、名古屋生まれ、
静岡大学人文学部を卒業、ジャズピアニスト

・FMファインのジャズ番組

「サウンドスペースライフタイム」のパーソナリティを10年以上務めた。

・真夏のジャズイベント「ストリートジャズイン静岡」を31年にわたり運営

以下、ゲスト林様の卓話内容

林と申します。よろしくお願い致します。川辺さ



んから、「毎週誰かをここで喋らなきゃいけない、なんとか俺を助けてくれ」と言われていますが、助けてくれと言われたら、よろしく願いしますということで、川辺さんとはオーディオ仲間であり、うちにもよく来てくれるんですけど、川辺さんのシステムは本当に素晴らしいシステムで、僕も真似したようなシステムを自分の店で鳴らしておりますけど、一度ぜひ聴きに来ていただけるといいかなと思います。今日は、今先ほど紹介しての中にすべて入っております、30秒くらいで全部終わっちゃったなって話を言う感じなんですけど、「ジャズと私とストリートジャズ in 静岡」ということで、ちょっと話したいと思います。私がまず誰かという、ジャズバードットクールというのがありまして、本当のちっちゃなジャズバーです。これは、常磐町パレスビルの6階で、ちっちゃなジャズバーをやっています。周りが騒いでいるので、ここでいくらドンチャンやっても誰も大きく言わないで、非常にいいスペースだなと思ってやっておりますが、写真にあるように左側にあるのがグランドピアノですね。ウッドベースがあって、ドラムセットがあって、久保田さんのライフタイムの本当にちっちゃいバンドをここで長らくやっております。店は88年にオープンしまして、今もう何年ですか、2024年ですので、30年以上ここでやっていることになります。右側にあるのが、うちのスピーカーが映っていますけど、そこそこのJBLのシステムで鳴らしていますので、ぜひ音楽ファンの方、来ていただけると、アナログのシステムで、いいジャズが聴けると。一部のハードバップといわれるジャズしかかけていないので、ぜひその辺のジャズを好きになってもらっていいなと、いつも思っております。そういう、単なるジャズバーの親父だと思ってください。で、

ジャズピアニストです。ジャズピアノが弾きたくてずっとこんな店をやっている、ただそんな男です。いつの間にかもう59になってしまいましたけど、どうですかね。もう本当に10代の頃からちゃらちゃら弾いていましたね。今ではたくさん仲間にも恵まれて、毎日楽しくジャズピアノを弾いて、スイングしています。そして先ほどもありましたけど、「サウンドスペースライフタイム」という、昔久保田さんとセレクトで一緒にやっていたんですが、そのタイトルそのままアニメでも使っております、「サウンドスペースライフタイム」という、ラジオDJ。誕生したらもう15年くらいになるのかな。ずっと76.9FMでやっております。この番組では本当に自分の好きなジャズをかけて、それについてしゃべるという、ただそれだけのことを15年間やっておりました。今では毎週金曜日の7時半から放送しておりますので、ぜひ皆さん聞いてください。ではここからですね、「ストリートジャズ in 静岡」の話をしていきたいと思います。「ストリートジャズ in 静岡」というイベントはですね、1994年からスタートしました。94年というと僕が29の頃から始めまして、今59になりましたから、本当に30年、31年ずっとやってきました。最初は、これは静岡大学の小櫻先生という地域経済研究をやっていたらっしゃる先生が、静岡市の大間というところに家を建てたり移り住んで、そこでジャズフェスをやらないかという話が来たんですよね。例えば、僕ができることはジャズぐらいしかないので、ジャズフェスをやってみましょうと。当時のドットクールのオーナーと石井さんと、そして小櫻先生と私と、大間って分かります？ 静岡市内なんですよ。藁科川をずっと1時間ぐらい山のほうに上っていくと、今ではオクシズという言葉があるんで

すけど、オクシズのほうへ行くと、突然現れる、かなり上ります。本当に道大丈夫かなと思うぐらいに上っていくと、突然ちょっと開けまして、おそらく200~300人ぐらいの集落で、そこに福養滝という滝があって、平家の落ち武者がここでちょっと行こうというような、そういう伝説のある福養の滝の駐車場に、簡単なテントを建てて、そこでジャズフェスをやったんですね。大変夢のある感じで、眺望もすごくよくて、静岡市が一望できるんですね。ドーンと下に広がっていて、ここはいいなと思ったのでやったんですけど、これが94年の夏、そして94年の冬にやったんですね。これは冬の写真です。見てわかりますね。雪が降っている中で、小さなテントを建てて、そこにアップライトピアノ。これはドットクールから持ってきたアップライトピアノです。静大のアメフト部の連中が、俺らが運び出ているから、それでアメフト部の人に任せて、ここで運んできたんですね。雪の中、第2回の写真ですね。94年の冬になったとき、ここに写ってる男は、小野田健といいます。うちのThe Tennig Bandという、うちのバンドのベーシストですけど、この頃から頑張っていて、真冬の、これはこのときは5バンドくらい出たかな。栗田丈資さんとも、清水のピアニストも出た、その記憶があるんですけど。94年に2回やったときの写真です。よくこの写真に残っていたなと思いますけど。続いていきましょうか。続いては、これ、サンセットジャズイン相良って書いてあるんですけど、このときは、第3回、第4回は相良町でやりました。これは、このときは、海とカモメの音楽祭と名付けてくれれば、何をやっても5万円出すという、相良町の言葉がありまして、このときは5万円もあれば何でもできると思って、それでみんなで企画して、これは相良サン

ビーチでやったときの写真です。相良サンビーチって今でもありますけど、レゲエのフェスとかで最近は盛り上がっていますが、僕らのほうが先で、ここではジャズフェスをやりました。ところが、夏やれば海水浴客が来てくれるかなと思ったんですけど、ほとんど海水浴来られる方は、海水浴をしたいだけで、ジャズなんか別に聞きたくないですよ。ということで、ほとんどお客さんが集まりながら、一応でも盛り上がった、これが相良のジャズフェスですね。これが95年、96年かな、という2回ですね。海とカモメの音楽祭の一部です。そして、第5回目から、これは青葉公園ですけど、青葉公園の写真ですね。これはスティーブ・ユーリックが写っています。こういうようなステージを立てて、青葉公園のB3区画で始めたのが、このストリートジャズ in 静岡というイベントです。この時は静岡市の補助金をいただいて、そして近藤理事さんにステージを作ってもらって、それで始まって、青葉公園で始めたのが第5回からですね。これはちょっと事件だったんですよ。何が事件かという、それまでお客さんがほとんどいらっしやらない中でやっていたのが、突然青葉公園が超満員になったんですよ。ドーンと人が入って、それでびっくりして、これは青葉公園って何なんだろうと思ったくらい人が入ったんですよ。それからもうやみつきになって、今でも青葉公園でやっています。それがこの32回まで続いたということですね。これは初めて、これは2000年かな、ちょうど2000年に、市と県の補助金がついに底をついてですね、さあどうしたらいいんだという時に、朝突然グレディアの斉藤さんから電話がかかってきて、斉藤さんがですね、今までオペラにお金を出していたんだけど、オペラあんまり好きじゃないんだよ、俺ジャズが好きだか

らさ、ちょっとお金出すよとか言って、なんとか救われたのが2000年ですね。輝かしきグレディアがバックアップしてくれた。グレディアさんがなくなっちゃいましたけどね。斉藤さんもなくなっちゃって、ちょっと悲しい思い出もありますが。続いては、これはスタッフの写真ですね。今でもこのくらいの数のスタッフがですね、ジャズフェスをバックアップしてくれています。これが会場の、青葉公園の模様です。結構入っていると思いませんか、人は。これ何か会場をステージ側から撮った写真なんですけども、本当に多くの方々にジャズを楽しんでいただいております。これもそうですね、これくらいの人々が常時聴いてくれているという感じですね。ここにブルーリーフカフェというのがちょっと見えますけど、静岡のバーテンダー協会の有志がですね、ここでバーを出してくれていました。結構長い事やってくれていましたけれども、ジャズとバーテンダー文化というのは非常に結びつくんじゃないかということで、バーテンダーがですね、ボランティアでここにバーを出してくれていました。これは私ですね、若いですね。大してピアノ弾いてないんですけどね。一生懸命やっているからだけは伝わるような。石野正治、これは会長、今は会長です。今でも会長職を受けて、静岡ジャズ愛好会、主催について説明するのが忘れましたが、静岡ジャズ愛好会というのを作っておりまして、その最初の代表幹事になったのが石野正治さんです。元静岡銀行のですね、専務理事だった方ですね、石野正治さん。ドラマーです。これは僕らのバンドですね、ゲストでドラムを立てている写真になります。そして、若干ミュージアムの紹介になりますが、これはユニティボイズという4人のコーラスバンド、今でも活動しておりますけど、非常に素晴らしいコーラスを

聴かせていただいております。これは第15回ジャズレボリューションのときの写真ですが、これは静岡大学スタンダードハーモニーオーケストラ「SSH」というですね、これは僕が所属していた、静大のときに所属していたところでありまして、いわゆるジャズ研でありますけど、ビッグバンドをやっております。若々しいですね。彼らはずっとこのストリートジャズを大々に支えてくれていまして、今年も20人近いボランティアでですね、静岡大学のジャズ研から応援に駆けつけてくれています。これはうちの娘と奥さんなんですけど、今じゃあもううちの娘は横浜へ出て行って派手に大学生活を遊んでおりますけれども、こういうかわいい子になりましたという。ストリートジャズは30年やっていますので、最初のうちから来てくれた子ですね、どんどん大人になって、そういうのを見ているのもちょっと面白いなという感じがあります。これはサルサのコステミーヤというですね、サルサのバンドとコラボしたときの写真ですね。こういう華やかなステージも繰り広げられることがあります。後ろに写っているのがタカハシトモキというですね、日本のジョン・コルトレーンと呼ばれる人なんですけど、こういうある意味日本のレジェンドもうちのジャズフェスに参加してくれることがありました。これはビッグバンドが並んでいて、わりに常時ですね、多くの方が楽しいということですね。これは静大の若手たちですね。今でもこういう若手がどんどん成長して、このフェスティバルとともに成長している感じです。最近は大林武司さんというね、トリオ、これも久保田さんが初めてやった成果だと思えますけど、静岡を代表するボーカリストが、ずっと長い間ですね、このフェスにも参加してくれています。これはジョイクワイアというゴスペルグループで

すね。これ、ゲットハッピーというタイトルでやったんです。これは2011年かな、震災の時のですね、この時は結構皆さんもご記憶があるかと思いますが、結構もう世の中騒然としまして、震災で。東北地方にも僕らの仲間がいっぱいいるものですから、いろんな物資を送ったりしたんですけど、これは三陸ジャズ喫茶協会というですね、あれはベイシーというジャズ喫茶のオーナーが立ち上げた三陸ジャズ喫茶協会です、壊れてしまった大槌とか釜石にあるジャズのクラブをですね、何とか再建しようというその意思のもとですね、全国のジャズファンがこの時、募金を集めました。僕らも三陸ジャズ喫茶協会にですね、このストジャズを通じて募金活動をやりまして、初年度は84万円だったかな。そしてその次の年、2年にわたって40万円ずつですね、寄付をすることができました。何というか再興したかという、再興しなかったんですけどね、そういう運動もありました。ゲットハッピー、懐かしいですね。幸せになる。これはシンガーもそうなんです、その奥に久保田さんが映っているという、本当に素晴らしいピアノを聴かせていただいております。こういうようにステージが展開されております。これは今川さんという、今川義元がデフォルメした、いわゆるゆるキャラですね。ゆるキャラとのコラボもこうしてやっていきました。こちらの写真は、これは両替町ステージというステージですね。両替町にトラックを入れて、今度もやりますけど、今年もやりますけど、両替町の交差点のところに十字路にトラックを入れて、そして両替町を封鎖して、そこでパフォーマンスをするという、そういうのが進んで前から、両替町とコラボレーションして始まりました。両替町とは実は割に騒音問題で、最初はうるせえなと言われていたのですが、そういう中

で両替町の2丁目発展会の方々と仲良くなってしまいまして、逆にこれから両替町と一緒に盛り上げようという感じに変わってまいりまして、そこでこういうロビーになってきましたね。これがそうですね、両替町の写真です。非常に盛り上がっています。これはヒロコ・ウィリアムスというジャズシンガーですね。奥でピアノを弾いていた久保田さんで、大野さんというテナーサックスが映っておりますが、彼女の中は今では日本を代表するジャズシンガーとして活躍しております。素晴らしいアーティストですね。ライフタイムでもよくライブをやっておりますね。これは夜の模様ですね。夜のステージジャズの模様ですが、割に多くの方々が楽しんでいただいております。これも両替町ですね。両替町はこれくらい人が入るんですね。ドーンとやると両替町ステージ、非常に楽しく盛り上がっています。これは東海ケーブルネットワークが生んだ2人の歌手ですね。太田克樹とカテリーンをフィーチャーしてジャズをやろうと。スポンサーが大きく30年の間に3社のところがやっていただきまして、最初がさっき言いましたクレディアさん、そしてその後東海さん、ここですよ。私も実はここの社員であった時期がありまして、東海さんにお問い合わせするときは、昔の上司に泣きついた感がありますね。なんとかなんないかなって言って松倉さんに泣きついたら、じゃあ広報を紹介するよということで、東海さんに15年くらいお世話になりました。ちょっと今年都合が悪くスポンサーが降りてしまったので、じゃあどうしようかと思っていたら、R&Oの鈴木理事長がですね、お前30年やってたイベント辞めちゃダメだという一言ですね。なんとR&Oの補助が5回スポンサー化していただくことになりました。これはその時東海さんがやってた時、東海さんのスターです

ね、2人を、当会社がやってた時、当会社のスターですね、2人をなんとかジャズを歌わせて、思い出の交差点のジャズバージョンというのを歌っていると思うんですね。これはベースデュオというのをやってるんですよ。あまりベースという書きって表に出ることないんですけど、ベース2本でパフォーマンスしてみようということで考えた企画ですね。ベース2本とジャズ。これは札の辻クロスホールの写真ですね。これ本当にいいホールで。これかわいそうなホールですね。音響がすごくよくて、今では人気のホールです。ストジャズの会場の中でも一番人気の今はこの札の辻クロスホールになっておりまして、なぜかという理由がありまして、今非常に暑いじゃないですか。夏フェスで表で聴いているのが辛い人がみんなここに集合するという現象がここ2、3年起きておりまして、この札の辻クロスホールはどの方ともいつも大盛況になっております。これくらい多くの人が入っているという写真ですね。ライフタイムですね、これは。ライフタイムでのジャズインの模様です。数年前から最初は青葉のステージだけでやっておりまして、このストジャズも。青葉公園だけでやっているというか、外でやっているだけではちょっともったいないので、というのはそのままお家に帰っちゃうともったいないので、要はジャズのお店でも同じように同日にこういうイベントを開催しようということが始まりました。それがどうですかね、第20回目くらいかな。それは外でやるジャズアウトに対してジャズインという企画を始めまして、それで今ではジャズインもかなり成長しまして、いろいろなお店の中にジャズアウトで楽しんでいる人が夜はジャズインでさらにジャズを楽しむと。そして共通チケットを出しまして、その共通チケットでジャズインを回ると少しお得に

楽しめるということで、ジャズインにチケットを買っていろいろ店を回ってくれるお客さまが最近増えてきたなという感じです。これはライフタイムにおけるジャズイン用具ですね。これは札の辻クロスホールのデジタルサイネージですね。ここにポーンと出すと非常に目立つのと。大事なのはチップでありまして、静岡は大道芸ワールドカップのおかげでチップの文化が根付いているなど。僕らのスタッフを使ってチップを回って、それを運営費であるとか、あるいはミュージシャンへのギャラとして扱う、そういう仕組みで動いています。これは本郷さと子さんですね。首都圏で活躍するアーティストも我々に参加してくれています。これは *so what* って書いてありますが、これは実は東京オリンピックにぶち当たった年なんです。東京オリンピックも夏ですし、我々のイベントも夏の頭にやっていたので、オリンピックとぶつかるジャンルがどうですか、どれくらい来てくれるか心配だったので、タイトルを *so what* でした。 *so what* って何？「だから何だ」っていうことです。だから何だよ。東京オリンピックに対してうちのスタッフが都合を吐きたかったんですよ。だから何だよって。つけたら、実はこの年はコロナとあたりまして、結果的にコロナに対して *so what* って言ってしまったんですね。ちょっと苦い思い出がありますね。ただ一つ、コロナ期間中も全く休むことなく我々のイベントは行いました。というのは、イベントを中止する、やってはいけないということは一言も言われていなかったんですね。この時よくあったのは自粛ですよ。自粛さえやらなければ、イベントのガイドラインもしっかり出ておりましたので、イベントのガイドラインを守って、我々は守ることでこういうイベントも一度も休むことなく行

うことができました。加護ちゃんは女性のアーティストで大活躍しております。マリテスですね。静岡を代表するシンガーで、積極的に参加しております。本郷さと子さんも、首都圏で活躍している方も協力しております。これ最後かな。今までのプログラムを全部まとめたのが、うちの店の後ろに貼っているんですけど、かなりの数になりましたね。31年の歴史がここにまとまっております。そういうことで以上と。私も30年やっていたの、バツと喋るの難いので、思い出の写真とともに語らせていただきました。本年のストジャズは、2024年、今月というか今週初です。すごくいいタイミングでこの回を呼んでいただいて、2024年は8月24、25日、お手持ちのパンフレットになっています。これ今年のTシャツです。宣伝があるので着てみましょう。R&Oリハビリグループプレゼンツということで、今年のジャズフェスは、ジャズアウト会場が5会場になりました。青葉本会場、札の辻クロスホール、それから両替町ステージ、それからベルティーロスステージ。ベルティーロスステージの会場は、東静岡のベルティックスというバスケットボールチームを応援する施設でもあります。ちょっと東静岡は場所が離れているので、さあどうするかということになったんですが、ベルティックスの選手が乗るバスをピストンで本会場と結んで、1日6往復するバスを出すことにしました。常磐公園の噴水の裏のセブンイレブンがあるんですけど、そのすぐ隣に100坪の土地がありまして、そこにバス停を作りまして、その東静岡の会場を1日6往復するピストン輸送するバスを走らせます。このバスはベルティックスの選手が乗るバスでありまして、非常に目立つバスでありますけど、バスケットのベルティックスのファンの方はぜひ一度乗ってもらえるとい

いかなと思います。無料のピストン輸送するチャーターバスを出しますので、ぜひ東静岡のステージの方にも足をお運びください。そしてもう一つ最後が今年から始まりました人宿町ステージ。これは創造舎の山梨さんがある日突然僕のライブに見に来てくれまして、会場が困っているんだけどどこかでできないかなと相談をしたんですね。人宿町でやるなら協力するという山梨さんの一言で、人宿町の創造舎の1階の駐車場に大きめのライブハウスをイメージしたステージを作って、そこでも演奏が2日間行います。かなりのバンドが出場するかと思います。ということでジャズアウトだけで5会場ですね。そしてジャズインというお店の中で展開するのが14会場。こんなようなイベントになってきてしまいましたね。それでご協賛も全47社今集まっている感じです。本当にありがとうございます。これ最後シャトルバスかっこいいですね。ベルティックスのシャトルバスですね。30年やった中で一番重要だった私のポイントは、このイベントは遊びです。真面目なことではないので。どうやって楽しくやるかというのが非常に大きな話でありまして、まちづくりとか人づくりとか文化交流とか、そういうことは一切考えない。どうやって楽しくなるかということだけを考えてきたのがこのイベントです。楽しければ人が集まるだろうと。ただそれだけの話ですね。第二、二つ目のポイントが真面目にならないということですね。昨日もそうだったんですけど、障害者に優しいイベントをしなければならないとか言い出すやつがいるんですけど、そういうのはやめよう。あまり真面目にならないようにやめよう。文化交流を進めなければとか、老人ホームの慰問もやっていかなければならないとか、よく意見が出るんですけど、そうなる楽しめなくなるので、あま

り真面目になることはともかく避けようと。これはちょっといろんな人と知り合いの中でもあります、全共闘世代の人たちが、特に連合赤軍とかの人たちと知り合いに行ったことがあるんですけど、植垣康博さんという、バランという店をやっていた方が言っていたんですけど、なんであんなことをやったんですかと聞いたら、そりゃ決まってるよお前、革命って面白いんだぞって言ってた。そりゃそうですよね。僕らはジャズフェスで楽しんでますけど、彼らは革命をやろうとして、それで団長が集まってワイワイやってるんだから、そりゃ楽しんで決まってるよ。どこでやってたんだろうと。もう本当に一家店が言って、そりゃそうだよね、俺の友達なんで。ところが、彼らが最終的にどうなったかという、自己批判処分とかね、結局自分たちをあやめるような行為をやってしまったわけで。これはおそらく僕は本当に教訓にしているんですが、真面目すぎるとダメなんですよ。そうすると、ボランティアやってる方はみんな分かると思うんですけど、真面目になっちゃうとどうしても硬直化するので、どうやって遊ぶか、どうやってやったら楽しくなるか、それだけに特化すればいいんじゃないのかと思って進めております。それから、ここがポイントなんですけど、組織化しない。僕が考えたことを君がやれとか、こういうのをあんまりやると、だんだん組織が出てきちゃうんですよ。だから徹底してるのは、僕がこれはいいと思うって言ったら、お前がやれといつも言ってます。これをこういう風にしたらいいんじゃない？じゃあお前がやれ。今年はタオルを作りたいって女の子が言ったので、じゃあタオル作りなよって言ったら女の子一生懸命作って、今年限定100枚で出しますが、何か新しいことをやりたいって言ったら、じゃあお前がやれよ。

それでOK。というのが僕らの、とにかく組織化しないというね。そうするといつもより楽しく運営できるかなと。あと効率をあんまり求めない。一人で行けばいいんだけど、でも楽しむのだったら二人で行けば良い。できれば男女で行けば良い。その方が楽しいから。そんな感じで、全てのことをなるべく楽しく運営できるようにいつも考えてました。大したことはやっていません。ただ遊んでいるだけの集団だと思ってください。ぜひ遊びに来てください。今月8月24、25日で行いますので、久保田さんもいますし、僕もいますし、非常に楽しいイベントですので、青森公園にぜひ遊びに来てください。以上で終了します。どうもありがとうございます。

●第2回定例理事会議事録●

協議・審議事項

- ① 姉妹クラブのサートンRCとのグローバル補助金事業における病院用救急車贈呈事業について

静岡RCの資金として1800ドル（1ドル150円として27万円）の拠出をお願いしたいとの依頼があり、そのうち委員会費として20万円の予算があるが、7万円が足りないため、その費用の拠出について審議の依頼があった。【承認】

- ② 卓話スケジュールの件（石川委員長）

2025年2月3日と6月23日に90周年に向けたパネルディスカッションを計画【承認】

- ③ 前年度決算報告の件（藤田会計幹事）

支出については、円安や物価高の影響により執行率が107%ほどとなってしまった。そのため繰越金を250万円ほど予定していたが、結果として127万円となった。【承認】

④ ポリオデーの件（横山幹事）

横山幹事より、世界ポリオデー 例会、募金活動の資料に基づき説明があった【承認】

報告事項

① 例会スケジュールについて

- ・ 8 月第 3 例会（8 月 2 6 日）会員増強担当
例会（担当：会員増強委員会）
- ・ 9 月第 1 例会（9 月 2 日）通常例会 会員
卓話（石道真奈美さん）
- ・ 9 月第 2 例会（9 月 9 日）通常例会
ゲスト卓話（N P O 法人 W o m a n ' s サ
ポート 代表 曾根原 容子様）

② 第 1 回親睦ゴルフコンペ（9 月 1 4 日土曜日）
静岡カントリー島田コース

③ 観月会（9 月 1 7 日火曜日）日本平ホテル

④ 静大付属特別支援学校秋祭り（青少年奉仕委
員会、ローターアクト委員会）

⑤ 歴代幹事会（9 月 2 5 日水曜日）浮月楼
1 8 時～

⑥ 次回、第 3 回定例理事会 令和 6 年 9 月 9
日（月）1 3 : 4 0 ～ 1 4 : 1 0（例会終了後）